

●2004年3月4日

間質性膀胱炎治療剤の開発を中止

生化学工業株式会社(社長:榎 史朗)は、米国で進めていたヒアルロン酸を主成分とする間質性膀胱炎治療剤(SI-7201)の臨床開発の中止を決定いたしました。これに伴い、日本新薬株式会社(社長:初山一登)と締結していた、日本国内での間質性膀胱炎を主適応とする膀胱注入剤についての共同開発及び販売に係わる契約の解消に合意いたしました。

今回の開発中止は、米国で実施した医療機器としての臨床試験の成績を評価した結果、本剤に期待していた有効性を明確には見いだせなかったことから、米国FDAの承認取得は困難であると判断したことによるものです。

また、日本国内においては、米国での臨床試験データを得た上で日本新薬と共に具体的な開発に着手することを計画しておりましたが、この度の成績評価を踏まえ、同社と慎重に協議を行った結果、平成16年2月26日に開発を断念するという結論に至りました。

生化学工業では、複合糖質および関節疾患を研究開発の重点項目とする効率的な新薬開発を促進すると共に、共同開発、ライセンス活動などを通して、製品開発品目の拡充を積極的に行っています。また、進行中のプロジェクトに関しては進捗状況を厳密に評価、判断の上、取り組みテーマを厳選し、新薬開発資源の重点配分を進めています。

以上